

追悼



森川尚威先生を偲んで

中村 尚司

Nakamura Takashi

森川先生が昨年（2016年）10月30日にお亡くなりになったとメールで連絡がありびっくりいたしました。先生はアイソトープの利用と安全に関して長年非常に熱心に携わって来られ、大学等放射線施設協議会の設立の発起人として、つい最近まで協議会の理事会等にも出席されていまして、88歳の高齢とはいえ突然の訃報に驚いている次第です。

森川先生と筆者との関わりは、筆者が昭和50（1975）年3月に京都大学工学部から、当時田無にあった東京大学原子核研究所の放射線管理室に助教授として赴任してからのことです。当時先生は設立されて（昭和45年）間もない東京大学アイソトープ総合センターで、放射性同位体標識化合物の合成・分析・測定に関する研究に取り組みられるとともに放射性物質の安全取り扱いや管理にも熱心に取り組みおられました。当時のアイソトープセンターは森川先生のご指導のもと、東大全体の研究、教育、管理を支援する体制が整っていて、放射線施設の許可申請や変更申請の書類等もセンターでチェックしてもらえて非常に助かりました。その後アイソトープ総合センターは京大、東北大などの旧7帝大、続いて千葉大、金沢大などの旧6医専と次々に設立されている時代で、これらのセンター群を取りまとめで、全国アイソトープセンター長会議の開催、全国放射線安全取扱研修などの様々な活動にも、積極的に取り組んでおられました。

田無時代の私の一番の思い出は、昭和55（1980）年の5月の連休明けに起こった²⁵²Cfの汚染事故で

す。当時朝日新聞の一面トップ記事に開催され、大きな話題になりました。ご存知の方もおられると思いますが、密封線源として許可を取って使用することが規則で決められていた約1 mCiの²⁵²Cf線源を、某共同利用者が無断で開封して実験に使って周りを汚染させ、しかも汚染測定も除染もせずに、実験で出た汚染されたごみを焼却炉に捨ててしまったという事件でした。この汚染された²⁵²Cf線源の後始末に森川先生にわざわざ田無の研究所まで来ていただいて、化学処理を手伝っていただきました。またこの事故の後始末では、東大事務局とアイソトープ総合センターには非常にお世話になり、特に森川先生には様々な有益な助言をいただいたことを心から感謝しています。

その後、昭和61（1986）年に筆者が東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンターの放射線管理研究部の教授に転任することになりましたが、この時も森川先生が筆者を推薦してくださったと後程お聞きしました。東北大に移ってからは、アイソトープセンター長会議等でお会いする機会が多くて、当時の文部省からいかに放射線防護の予算を確保するかについて、いろいろ相談したことも懐かしい思い出です。

また、森川先生は大学等放射線施設協議会の設立にも大きな力を発揮されました。文部省からも全国の大学の放射線施設における放射線安全管理の徹底をはかってほしいとの要望があり、連絡網としても完備を期待しているとのことで、文部省学術国際局学術情報課と様々な打ち合わせをして、国立大学はもちろんのこと、公私立大学にも参加を呼びかけることにしました。第1回の理事会が、平成7（1995）年6月9日に開催され、文部省学術情報課の方も参加して設立が決まりました。この席で森川先生が顧問に就任されました。平成元（1989）年の東大をご退官後は相模中央化学研究所研究顧問や東大アイソトープ総合センター客員研究員として研究に従事されるとともに、協議会では刊行物の編集、放射線管理に関する提言など様々な活動を熱心にされましたので、突然の訃報でぽっかりと穴が開いたような気がいたします。

長い間のご指導とご鞭撻に感謝しつつ、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

（東北大学名誉教授）